

「狭まる「住」の選択肢 実習生受入企業の現状 家賃・広さの要件厳しく」

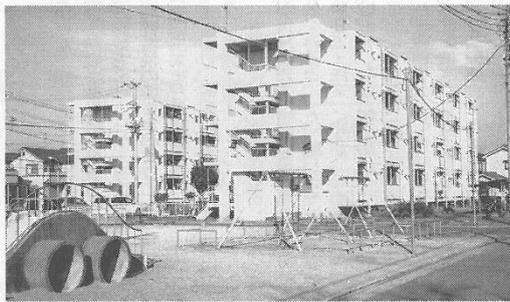
# 狭まる「住」の選択肢

## 実習生受入 家賃・広さの要件厳しく

敷金・礼金・手数料・更新料なしの低廉な家賃で住まいを提供するビレッジハウス・マネジメント(東京都港区、岩元龍彦・工藤健亮共同最高経営責任者)の住宅が、技能実習生を受け入れる企業からの支持を集めている。実習生を送り出す国が求める住宅控除の上限額や1人あたりの居住スペースなどの要件をクリアするには「首都圏ではビレッジハウスしか選択肢がない」とつぶやく。深刻さが増す職人不足への対応策として、積水ハウスは2022年までに約3000人のベトナム人を雇用すると発表するなど、住宅業界でも外国人労働者の受入体制を強化する動きが出始めている。そこで、5年前から技能実習生の受け入れを始めて、現在約100人を受入中という食品製造販売会社のデリカエース(埼玉県上尾市)に、実習生の住まいや暮らしの現状について聞いた。

デリカエースは、セブンという。「人材不足を解決するため、5年前にフィリピンなどで販売される消すため、5年前にフィリピンやインドネシアのリベリンから17人の若い実習生を受け入れ、徐々に受け入れ人数を増やしてきた」と話すのは、実習生の仕事や生活のサポートをする総務部の渡邊孝雄さん。実習生が業務に専念できるように、全8棟の建物から、空き室

# トレンドナビ



実習生が暮らすビレッジハウス上尾の外観

は約1万5千円。ここ「入居者募集」の垂れ幕を見て相談したところ、工場から近くて家賃も安く、1000人規模が移住できる空き部屋が確保できたなどの好条件も重なった。もし、実費で請求する1ヵ月あたりの生活費は約2万円。同社は、この生活費を実習生の賃金から控除している。渡邊さんによると、この控除額に対する実習生送出国が求めている条件が厳しくなってきたという。実費以上の過剰な家賃を徴収しないよう、実習生の保護が目的の上限設定だが、「家賃相場の高い首都圏では、要件を満たす物件はほとんどないのではないか」と話す。同社の実習生も19年7月、住宅費控除要件をクリアするために、それまで住んでいた家具家電付きの民間賃貸住宅からビレッジハウスに移り住んだ。同

## ビレッジハウス・マネジメント

ように、国内での住まいの確保やゴミ出しルールの周知徹底など、さまざまな身の回りの世話をし、実習生の「父親役」だ。3DKを3人でシェアしているのは、工場から徒歩7分ほどの場所に建つ「ビレッジハウス上尾」。1戸に3人の実習生が住むので、1人あたりの家賃は約1万4千円。1人1部屋が割り当てられ、キッチンやダイニングはシェアする。このほか、近隣住人とのトラブルを回避するために「一部屋内での深夜までに及ぶ誕生日パーティの自粛」も求めた。誕生日を盛大に祝うのはフィリピンの文化だが、日本人との共同生活を送る上でのマナーだと教えられる。「実習生は皆、真面目で素直なんです」と渡邊さんは評価する。この素直さは、職場の雰囲気も明るくした。「一番最初に受け入れた17人のフィリピン人が、受け入れに否定的だった従業員に好印象を与えてくれた。1年で帰国しなければならなかったが、愛情豊かで協調性も高く、若者が年長者を敬う文化を持つ彼女たちのおかげで、翌年以降、受け入れ人数を拡大することができた」と振り返る。大工の人数は、2030年には10年の約40万人から半分(約21万人)になると予測されている「野村総合研究所調べ」。技能実習生の受け入れを検討する企業は「実習生の住まい問題」にも注目する必要がある。